

タイトル：平戸度島スタディ：離島での眼科検診の概要

英語：Takushima Study：Summary of Population-based Study in an Isolated Island

溝口 尚則（溝口眼科、LIME）、森重直行（大島眼科病院、LIME）、川島素子（慶應大、LIME）、福岡詩麻（大宮はまだ眼科病院、LIME）、高静花（大阪大、LIME）、白川理香（東京大、LIME）、鈴木崇（いしづち眼科、LIME）、高木健一（北九州医療センター、LIME）、東登陽三（東眼科、LIME）、麻生順子（あそう眼科、LIME）、有田玲子（伊藤医院、LIME）

目的：日本には多くの離島があり、そのほとんどは眼科診療所がない。今回我々は、眼科診療所のない離島である長崎県平戸市度島町において、全住民を対象とした眼科検診を行い、眼科疾患の有無と眼科受診率について調査したので報告する。

対象と方法：対象は度島在住の6歳以上の全住民 592 人（のうち同意を得られた者（未成年者は保護者の同意）。検診は、2017年11月3-5日に行った。視力検査、眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査などの眼科一般検査を行い、眼科受診の有無を問診した。

結果：検診参加者は 384 名（男性：141 名、女性：243 名）、検診受診率は 64.9%だった。受診者の平均年齢±SD（最小値～最大値、中央値）は 55.5±22.4 歳（6～92、60）だった。何らかの眼疾患があったのは 314 人（81.8%）で、うち、眼科未受診者は 274 人（71.4%）だった

疾患内訳は、前眼部疾患 287 例（46.6%）、白内障（視力低下をきたすもの）75 例（12.2%）、緑内障（疑い例も含む）23 例（3.7%）、網膜疾患 18 例（2.9%）だった。それぞれ眼科未受診者は、前眼部疾患 173 人（60.3%）、白内障 62 人（82.7%）、緑内障 18 人（78.3%）、網膜疾患 14 人（77.8%）だった。

結論：眼科疾患があり、眼科受診を要するもののうち、約 70%は眼科を受診していなかった。眼科診療所のない離島では定期的に眼科検診および受診啓発を行うことの必要性が示唆された。